

清らかな流れと共に続く、未来へのあゆみ

後志利別川

Shiribeshi-Toshibetsu River



函館開発建設部

後志利別川の姿

幾度も「水質が最も良好な河川」に選出される北海道屈指の清流

後志利別川は、その源を北海道瀬棚郡今金町の長万部岳(標高972m)に発し山間部を流下し、今金町住吉において平野部に出て、今金町市街部でオチャラッペ川等を合わせ、せたな町において日本海に注ぐ道南唯一の一級河川であり、過去に幾度も「水質が最も良好な河川」に選出される清流として知られています。

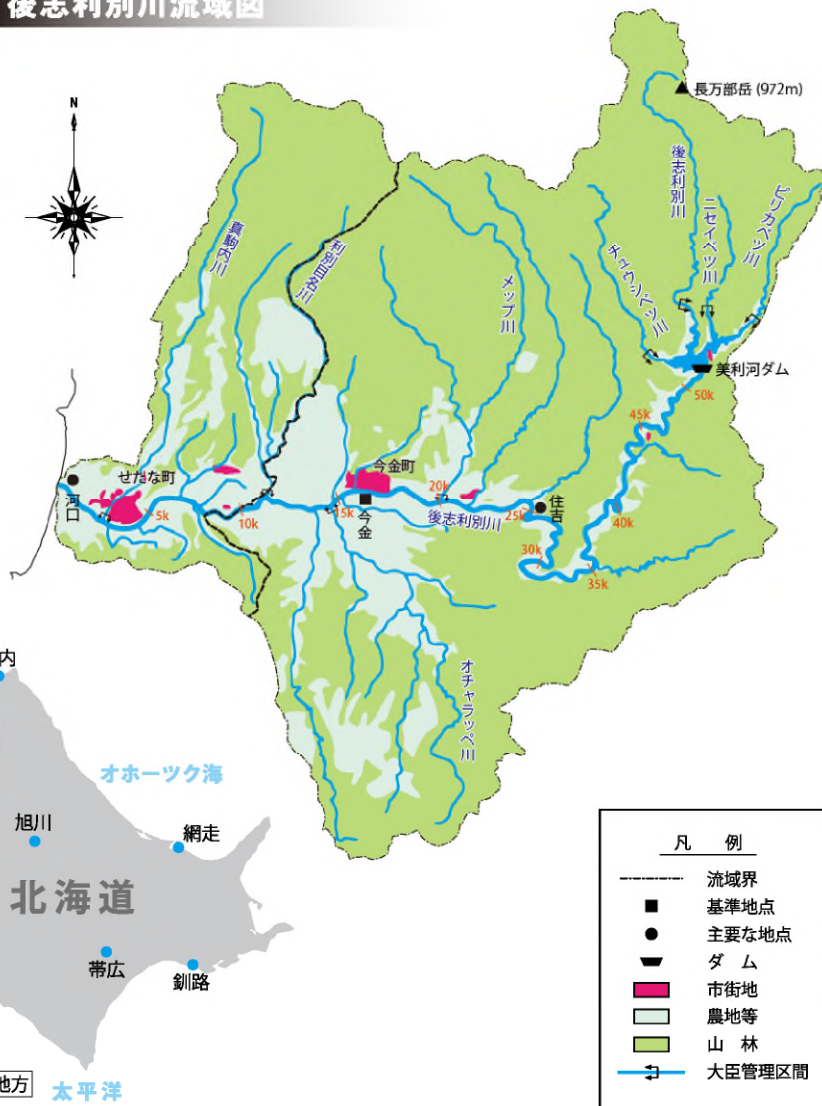
後志利別川の周辺は稲作やジャガイモ(今金男爵)の生産が盛んに行われる道南地域を代表する農業地域が広がっており、檜山地方における社会・経済・文化の基盤となっています。

後志利別川という名は、アイヌ語の「ツウシベツ」(山の走り根・大きい川)あるいは「トゥッ・ベツ」(網・川)によったものと考えられており注)、十勝支庁の利別川と区分するため、「後志」を冠したものです。

注)「北海道の川の名」:山田秀三著

【流路延長】80km 【流域面積】720km²

後志利別川流域図



■「水質が最も良好な河川」は国土交通省が実施している水質調査において対象となる全国159河川のうち、以下の両方の条件を満たす河川になります。
・対象河川の名調査地点のBOD(生物化学的酸素要求量)年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/L(環境省の定めるBODの報告下限値)
・対象河川の名調査地点のBOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/L(環境省の定めるBODの報告下限値)

■最新の「全国一級河川の水質現況」については、国土交通省ホームページを参照願います。

国土交通省HP—水管理・国土保全トピック—環境—河川水質の現況：
https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/index.html



後志利別川の歴史

川と共に歩んだ人々と洪水の歴史

後志利別川は流域に豊かな潤いをもたらす一方、過去に幾度も洪水を引き起こし、人々を苦しめてきました。

なかでも昭和4年8月の大洪水は流域に甚大な被害をもたらし、これを契機として本格的な治水事業がスタートしました。

昭和9年の低水路工事を皮切りに、堤防整備や捷水路(ショートカット)工事、平成3年には美利河ダムが完成する等、治水事業が展開され、少しずつ安全性が高められました。

しかしながら、水害への備えは未だ万全ではなく、より安心できる暮らしのために、防災力の向上が急務となっています。



昭和37年(1962年)8月洪水
(せたな町北樽山地区)



令和4年(2022年)8月洪水
(今金町市街地)

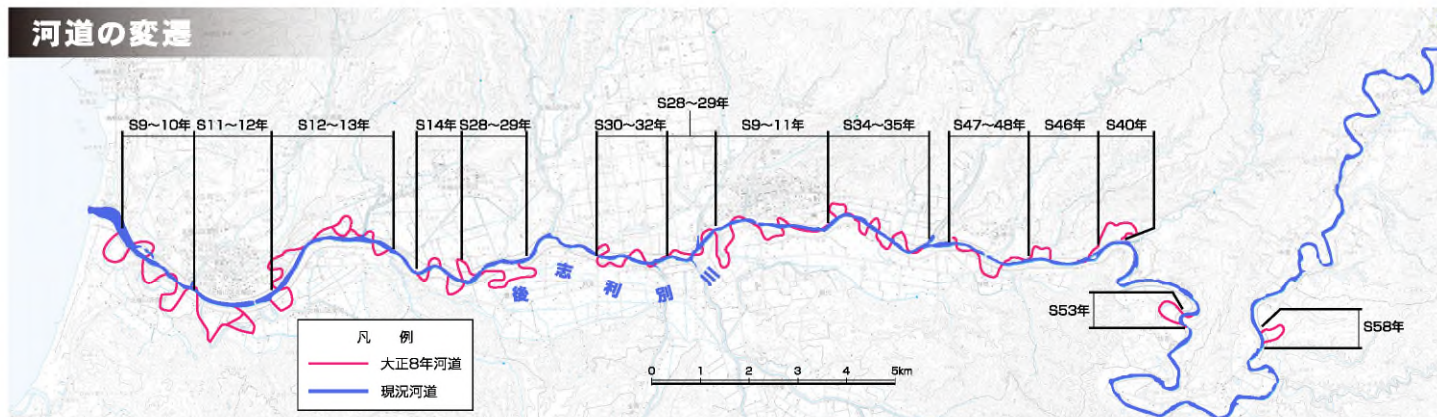
流域を襲った主な洪水の爪痕

洪水発生年月日	気象原因	流域平均 24時間雨量 今金地点(mm)	今金地点流量 ^{※2)} (m ³ /s)	被害等
昭和4年8月	台風	145	-	被害家屋(戸) 70 氾濫面積(ha) 2,400
昭和37年8月	台風	218	1,130	被害家屋(戸) 1,896 氾濫面積(ha) 5,078
昭和50年8月	台風	181	770	被害家屋(戸) 133 氾濫面積(ha) 1,563
昭和60年9月	台風	129	880	被害家屋(戸) 111 氾濫面積(ha) 380
平成9年8月	台風	132	820	被害家屋(戸) 23 氾濫面積(ha) 284
平成10年5月	低気圧	206	870	被害家屋(戸) 23 氾濫面積(ha) 282
平成11年7~8月	低気圧	129	950	被害家屋(戸) 28 氾濫面積(ha) 115
平成22年7月	低気圧	134	650	被害家屋(戸) 17 氾濫面積(ha) 139
平成23年7月	前線	126	610	被害家屋(戸) 1 氾濫面積(ha) 22
平成24年5月	融雪と前線	109	760	被害家屋(戸) 0 氾濫面積(ha) 7
平成29年9月	台風	189	1,320	被害家屋(戸) 0 氾濫面積(ha) 25
令和4年8月 ^{※1)}	低気圧	233	1,300 (速報値)	被害家屋(戸) 58 氾濫面積(ha) 169

※1) 令和4年8月は速報値のため、今後変わる可能性があります。

※2) 流量は氾濫量及び美利河ダムによる調節量を戻して算出した値になります。

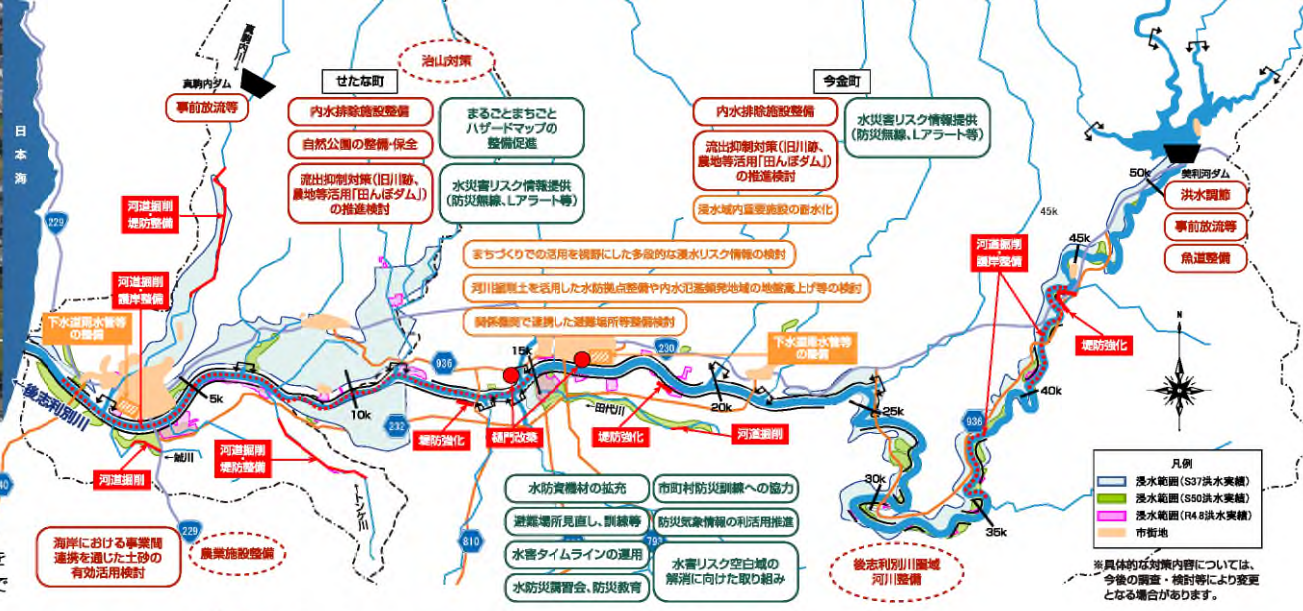
河道の変遷



後志利別川水系 流域治水プロジェクト



最新の流域治水プロジェクトは函館開発建設部のホームページを参照願います。
<https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/koumu/mt6nfj00000d16f.html>



全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策の推進

流域治水とは、国、北海道、町、住民など流域の中のアラゆる関係者が協働して水害を減らすための取組を行うものです。気候変動の影響を踏まえ、道南地域を代表する穀倉地帯である後志利別川流域においても、より一層事前防災対策を進める必要があります。国河川においては、気候変動(2℃上昇)においてもこれまでの整備計画での目標(戦後最大洪水である昭和37年8月洪水規模)と同程度の治水安全度を確保し洪水による災害の発生防止または軽減を図ります。

また、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化、流域の土地利用の変遷等を踏まえ、河道掘削等の更なる治水対策を推進します。その実施にあたっては河道掘削後の表土還元による草本類の早期再生や連続する淵・溜の保全・創出などの取り組みや美利河ダム魚道整備等により、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進しています。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削・堤防整備・堤防強化・樋門改築等
 (函館開発建設部、道農総合振興局)

- ・河道掘削、堤防整備、堤防強化、樋門改築等
- ・既存2ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者：国、北海道、市町村、土地改良区など)
- ・SMART-GrassやAI/Eye Riverの活用による河川管理施設の品質確保と適切な機能維持
- ・流出抑制対策(旧川跡、農地等活用)の推進検討
- ・海岸における事業間連携を通じた土砂の有効活用検討
- ・河道掘削土を活用した堤防強化
- ・内水排除施設整備
- ・治山対策・森林整備
- ・下水道雨水管の整備



被害対象を減少させるための対策

河川掘削土を活用した内水氾濫頻発地域の地盤嵩上げ等の検討

- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討
- ・河川掘削土を活用した水防拠点整備や内水氾濫頻発地域(農地等)の地盤嵩上げ等の検討
- ・関係機関で連携した避難場所等整備検討等

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

水災害リスク情報の提供(防災無線、アラート等)
 (せたな町、今金町)

- ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策
- ・河道掘削土を活用した水防拠点整備及び水防資機材の拡充
- ・水災害リスク情報の提供(防災無線、アラート等)
- ・避難場所・方法の見直し、避難経路検討、避難訓練
- ・水害タイムラインの運用
- ・まちごとまことハザードマップの整備促進
- ・水防災に関する講習会、防災教育の実施
- ・的確な水防活動のための水防訓練
- ・水害リスク空白域の解消に向けた取り組み
- ・市町村防災訓練
- ・防災気象情報の利活用推進
- ・河川管理施設の自動化・遠隔化等
- ・ハザードマップの周知と住民の水害リスク理解促進の取り組み
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進、避難訓練
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討(水害リスクマップ)
- ・三次元管内図整備による河川管理の効率・高度化等

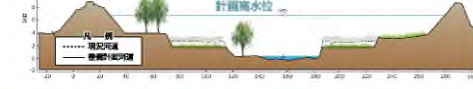


函館開発建設部が主体となって実施する河川整備

河道掘削

川の水を安全に流すためには十分な河道断面を確保する必要があります。そのため、必要な箇所において河道掘削や樹木の除去等を行います。

河道掘削を行うにあたっては、魚類の生息場となるフンド、淵、溜や鳥類の生息場となる河岸林の保全・草地環境の回復に努めます。



堤防強化

歴史的な経緯の中で建設された土木構造物である堤防は、内部構造や基礎構造が不明確な場合があることや気候変動により洪水継続時間の長時間化も予測されていることから、調査・点検を行い、必要に応じて強化対策を図ります。

なお、堤防強化は河道掘削で発生した土を用いて実施します。

情報網等の整備

河川の画像、監視カメラCCTV、管理施設の監視、遠隔操作、管理施設の適切な管理、情報発信、自治体、配置されている観測機器、レーザ、雨量計、水位計、流速計

樋門遠隔化、改築等

樋門は家屋や田畑等の堤内地から発生する水を川に排水する施設です。樋門操作の効率化等のため、自動化・遠隔化を実施します。

また、流下断面不足及び老朽化が著しい箇所においては、既設を取壊し、新設する「改築」を実施します。

内水対策

内水被害の状況や、その変化を随時把握し、関係機関との連携のもと、被害軽減に努めています。具体的には、排水ポンプ車等による内水排水が円滑かつ迅速に行われるよう作業用の進入路、作業ヤード、釜場等の整備を行っています。

排水釜場、内水排水状況、内水排水のイメージ図

美利河ダム

美利河ダムは後志利別川上流、今金町に位置する多目的ダムです。昭和37年8月に起こった洪水を契機に計画され、昭和54年に建設事業に着手、平成3年に完成しました。洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給、発電の4つの目的を持っており、治水、利水の両面で流域の人々の暮らしを守り、支えています。

また、このダムには魚が自由に移動できるように全長約2.4kmのバイパス式魚道が設けられています。

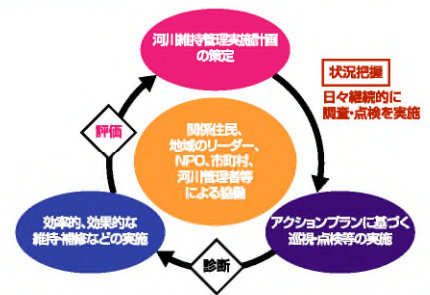
美利河ダムとワリカ湖、多自然魚道

河川の維持管理

サイクル型維持管理体制を確立

後志利別川では水害に備えた治水対策を進める一方、豊かな河川環境を多くの人々に利用していただくため、多彩な維持管理を行っています。

維持管理に当たっては、地元の皆さんとも連携し、状況把握と維持・補修を繰り返す「サイクル型維持管理体制」を確立し、地域の特性に沿った活動を展開しています。



河川情報の収集・提供

水文、水質、土砂の移動状況、土地利用等の河川管理に資する情報とともに、河川水辺の国勢調査により河川環境に関する情報を適切にモニタリングします。

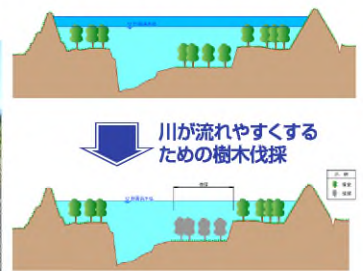
また、既存の無線システム及び光ファイバー網を活用し、雨量や河川の水位、ダムの貯水位、放流量等に加え、画像情報や堤防をはじめとする河川管理施設に関するデータ等の河川情報を収集し、インターネット等の情報通信網等を用い、関係機関及び住民に幅広く提供し、情報の共有に努めるとともに、収集したデータを活用し、より一層効率的な維持管理を進めています。



川の防災情報:
<https://www.river.go.jp/index>

河川管理施設の維持管理

洪水による被害が軽減され、河川が適正に利用されるとともに、流水の正常な機能と河川環境が維持されるよう総合的な視点で堤防などの河川管理施設及び河道の維持管理を行っています。



水質の保全と水質事故への対応

水質の保全にあたっては、水質を定期的に観測し、状況を把握すると共に、関係機関と情報を共有し、良好な水質の維持に努めています。また、水質事故の防止には地元住民の意識の向上が不可欠であることから、「北海道一級水系河川環境保全連絡協議会」を通して、関係機関が連携して水質事故防止に向けた取組を行っています。



危機管理体制の整備

河川管理施設の状況や異常発生の有無を把握するため、洪水や地震等が発生した場合、またはその恐れのある場合には迅速かつ的確な巡視を行います。また、水防活動の主体となる水防団との連携を深め、合同巡視や水防訓練など、水防体制の充実を図ります。



河川空間の利用・ 地域の人々との交流

川を舞台とした多彩なイベントが開催

後志利別川はマラソン大会や運動公園を中心としたスポーツイベントやカヌー・釣り・登山・歴史探検など、人々の憩いの場としても活用されています。



カヌー川下り



今金運動公園

河川景観の保全と形成

後志利別川上流部においては、山地溪流や周辺の景観と調和を図りつつ望ましい河川景観の保全・創出を図っています。

下流市街部においては、地域の人々にとって憩いの空間になるよう、河川公園や桜づつみの整備が行われています。今後も、特に多くの人々が利用する施設について、ユニバーサルデザインに基づくバリアフリー化を行う等、人に優しい水辺整備を進めていきます。



平野部の田園風景



桜づつみ



上流溪流



ピリカ湖



オオシュブンナイの滝

美利河ダム見学会

普段はなかなか見ることのできないダム内部の監査廊や操作室の見学、洪水調節のしくみや、美利河ダムに整備されている魚道について等、ダム管理支所の職員が紹介・解説します。



ダム内部見学



魚道観察窓

防災・減災に関わる知識の普及

学校教育を通じた防災・減災意識の向上並びに地域の特性を踏まえた防災・減災教育の取組として、主に小中学校を対象とした防災教育を実施しています。

また、地域住民、学校、企業等が防災・減災に対する意識を高め、洪水時に自主的かつ適切な行動をとれるように、洪水ハザードマップを活用した防災訓練、防災計画検討等の取組に対し、それぞれの組織や設備等の状況も踏まえ、技術的支援・協力をを行っています。



防災教育



マイ・タイムライン作成補助

■お問合せ・お申込み

函館開発建設部 今金河川事務所 美利河ダム管理支所
TEL0137-83-7335

※対象：ダム見学会の対象は、原則として公共性、公益性のある団体・機関等(市民団体、学校法人、地方公共団体、公益法人等)で営利を目的としないものとします。



出前講座を行っています。

函館開発建設部では、地域の皆さまに当部の活動へのご理解をいただき、また、皆さまからのご意見や生の声を聞かせていただくため、担当職員が直接皆さまのところへお伺いしたり、現場へ来ていただき、開発行政の施策や事業に関するテーマをわかりやすくお話しする「出前講座」を実施しています。子供から大人まで幅広い方々に受講していただける内容となっておりますので、興味のあるテーマがございましたら是非ご利用ください。

— 河川事業としては以下のような講座をご用意しています。 —

後志利別川における河川事業について

後志利別川の概要や河川事業の役割と効果、また過去の洪水被害の状況や洪水に備えるための基礎知識などについて分かりやすく説明します。

美利河ダムについて

美利河ダムの歴史、構造、役割について説明します。また、日本初のバイパス式魚道の概要について紹介します。

お申し込み・お問い合わせ

函館開発建設部 広報官

電話 0138-42-7702 FAX 0138-40-3619

最新の出前講座メニューは函館開発建設ホームページを参照願います。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/kouhou/eqp9bq000000iad.html>



あしたを創る 北の知恵
北海道開発局



函館開発建設部

【工務課】

〒040-8501 函館市大川町1-27 TEL:0138-42-7604

<https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/koumu/index.html>



【今金河川事務所】

〒049-4308 瀬棚郡今金町今金414-7 TEL:0137-82-0041

https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/imagane_kasen/index.html

